

外国人生徒等に対する取り組み事例⑥

東京都立 六郷工科高等学校

全日制・単位制
全学科に特別入試枠を設置
全教職員対象の研修
ユースソーシャルワーカーとの連携
多文化コーディネーターの配置
生徒間の交流と協働

東京都で唯一、外国人特別入学枠を持つ工業科の高校です。全教員が参加する研修が充実していて、日本語が流暢でない外国人生徒等との話し方や、在留資格についての研修を開催しました。生徒の居場所づくりやダイバーシティ、キャリア教育などにも積極的に取り組んでいます。



| | | | |
|------------|--------------|-----------------|--------|
| 学校名 | 東京都立六郷工科高等学校 | 所在地 | 東京都大田区 |
| 課程・制度・学科 | 全日制・単位制・工業科 | | |
| 特別入学枠 | 有 | 措置 | — |
| 全校生徒数（人） | 392 | 外国籍生徒数（人） | 13 |
| 特別枠入学者数（人） | 7 | 日本語指導が必要な生徒数（人） | 14 |

プロダクト工学科、オートモビル工学科、システム工学科、デザイン工学科、デュアルシステム科という5つの科があります。2018年度入試からプロダクト工学科とデュアルシステム科に外国人生徒等の特別入学枠（特別入学枠）を設置し、2021年度入試からは全ての学科を対象に外国人特別入学枠を設けています。全校生徒の約半数は卒業後に就職するため、職業人としての立ち居振る舞いができることと、就職試験に合格できる学力の定着を教育目標にしています。

生徒の実態・とりまく状況

今年度（令和3年度）は特別入学枠で7名が入学しました。特別入学枠は来日後3年以内の生徒に適用される入試制度のため、一般入試でも10名の生徒が入学しました。

ネパールにルーツをもつ生徒が多いです。アジア出身の生徒からは、「日本の科学技術を学びたい」、「母国との橋渡しをしたい」、「母国に帰って母国のために活躍したい」という工業高校ならではのニーズがあります。学年トップの成績をとるのが外国人生徒等であり、特別入試枠で入学した生徒は努力家で成績もよい生徒が多いです。これまでに東京都教育委員会から努力を認められて表彰された生徒が2名います。



在京外国人選考

六郷工科高等学校は東京に住む外国人のための入試を実施しています。

| 受験できる条件 | 試験内容 |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1. 受験と一般に同等に なっている | 1. 面接 |
| 2. 外国籍 | 2. 作文（面接または面接後） |
| 3. 日本に来て3年以上 | ※ 面接する日の前日までに 帰国することができません。 |

特色ある取り組み「生徒間の交流と協働」

居場所づくり：工業科では、他の科に在籍する同級生と交流する機会が少ないです。国際理解教室は全ての科の生徒が集まる機会なので、外国につながるのある生徒同士がつながり、居場所と感じられるような交流活動を大切にしています。

多文化共生スクールコーディネーターのかかわり：生徒同士という横の関係でもなく、教師生徒という上下の関係でもない「ななめの関係」として生徒に関わっていて、生徒たちにとって話しやすい相手であり、いい関係性を築いています。

多文化理解活動：ネパールや南アジア出身の生徒が多いので、日本に住むネパール人の話を聞いたり、パキスタンやインドの映画を見て意見交換したりしています。また、日本文化体験フィールドワークや、大田区スピーチコンテストによる自国文化紹介なども行っています。

日本人生徒と外国人生徒等の協働：多文化共生スクールコーディネーターの支援をもとに、外国とつながりのある生徒と日本の生徒と一緒に参加できる企画を通して双方が歩み寄る高校を実現しようとしています。

学外との連携

多文化共生教育ネットワーク東京（TEAM-Net）のサポート：高校や中学校の教員、大学の先生、弁護士、外国人を支援している NPO 法人等とのネットワーク組織として生まれた多文化共生教育ネットワーク東京（TEAM-Net）とも連携し、進路や生活の上で日本語がわからないことによる困難があるとき、サポートできるようにしています。

東京都の都民安全推進本部との連携：多言語の避難訓練を計画しています（コロナ禍で開催には至っていません）。

今後の取り組み

多文化共生コーディネーターの役割：多文化共生コーディネーターは日本語指導員として外国人生徒等の日本語能力の把握はできていますが、学科の成績（評定）や単位取得に関するコーディネートまで踏み込んでいないところがあります。この点をどのように対応していくか考えていきたいと思っています。

工業高校としての日本語学習：工業高校の学習内容や実習をサポートするための日本語学習か、現在行っているような日本語学習のどちらを優先させるのか、悩んでいます。

日本語の到達目標の設定：日常会話においては話したり、聞いたりできますが、読む・書くに困難のある生徒が多いです。また、日本語の正確性に欠けているため、日本語能力試験や漢字検定を通して正確さを意識させるような到達目標が必要だと考えています。

ヒアリング実施日：2021年10月8日